



BUSINESS REPORT

第21期 年次報告書

2011年4月1日>>> 2012年3月31日



株式会社 ケアサービス

企業理念

私たちは、お客様一人ひとりの
尊厳に共感したサービスを提供します

私たちは、全従業員とその家族の
幸せを追求します

ケアサービスでは従来の経営理念を改め、
今年度より新たに企業理念を制定いたしました。
お客様満足と従業員満足を共に大切にし、
社会に求められ続ける存在となります。



株主の皆様へ



代表取締役社長

福原 敏雄

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第21期（平成24年3月期）のご報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年、3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震は、多くの人命を奪い、明治以来最大の地震被害をもたらしました。

改めましてお亡くなりになられた多くの方に心より追悼の意を表しますとともに、地震により被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

この震災の業績に与える影響が懸念されましたが、第21期（平成24年3月期）におきましては、おかげさまで計画を達成することが出来ました。

当社、エンゼルケア事業においては、福島県いわき市のいわき事業所が被災いたしました。大きな人的被害及び建物被害はございませんでした。

本事業におきましては、葬儀業界において葬儀価格の下落傾向は続いておりますが、ご本人様とご家族様の最後のご対面の場として、ご好評をいただいている湯灌及びメイクサービスを提供するCDC体制の強化を図ってまいります。

介護事業におきましては、平成24年4月の介護保険制度改正に柔軟に対応できるように準備を進めてまいりました。

関連法令の遵守や適切な人員配置とともに、各事業の業務フローと研修体系の整備に取り組んでおります。

このような環境の変化に伴い、主力であるデイサービス（通所介護）におきましては、東京都内ドミナント戦略の継続とともに、既存の小規模デイサービスセンターの中大型への建て替えを推進し、収益をより安定的に確保できる事業基盤を構築してまいります。

また平成24年3月には、当社では3棟目となるサービス付き高齢者向け住宅「フォーライフ大宮公園第二」を埼玉県さいたま市見沼区に開設いたしました。

最後の看取りまで介護を提供できる『終の棲家』として、従業員の研修や地域の医療機関との連携を図り、お客様とご家族様にご安心いただける施設を目指してまいります。

当社はこのような取り組みにより、中長期的に拡大が確実な介護及び葬儀市場において、社会的責任と使命を果たしながら、長期にわたる継続的な成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、これまでと変わらぬお引き立てを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成24年6月



事業の概況

●介護事業

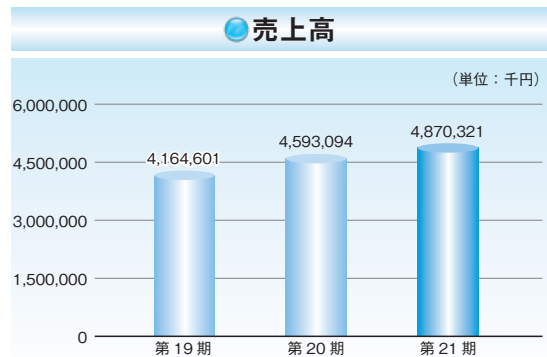
介護サービス業界におきましては、高齢化が進む中、介護サービス需要は高まっております。介護事業各社は、平成24年4月の改正介護保険法の施行による法改正に対するの取り組みを進めております。

こうした状況下、当社は、既存事業の強化及び業務効率化に加え、法令遵守の徹底及びサービスの向上を図るため、体制の見直しを行い、お客様一人ひとりの尊厳に共感したサービスの提供に努めてまいりました。

昨年度に続き、当事業年度においても、東京23区に一極集中してのデイサービスドミナントエリア拡充を推進してまいりました。平成23年6月に「デイサービスセンター墨田」を墨田区に開設、7月に「デイサービスセンター東葛西」を江戸川区に開設、さらに同月に「デイサービスセンター保谷」を23区に隣接する西東京市に開設いたしました。また、効率的な店舗運営を推し進めるべく平成23年9月に葛飾区にある「デイサービスセンター堀切菖蒲園」を閉鎖し、「デイサービスセンター堀切」として移転開設する等、積極的出店投資を行ってまいりました。この結果、当事業年度末において東京23区及び隣接する地域のデイサービス施設は49事業所となりました。

デイサービスにつきましては、デイサービス・訪問入浴・訪問介護・居宅介護支援・福祉用具貸与・特定福祉用具販売・ハウスクリーン・エンゼルケアのシナジー効果を活用して、首都圏オンリーワン事業者の立場の確立に向け、基盤整備の充実を図り、地域に根ざした取り組み強化をしております。併せて、既存事業所の稼働率を高めるため、新規利用者の獲得とサービスの向上にも努めてまいりました。

一方、訪問入浴は、平成23年5月に杉並区の「訪問入浴下井草」を「訪問入浴和泉」に統合し、11事業所となりました。訪問介護は4事業所、居宅介護支援は7事業所と開設及び閉鎖はございませんでした。



●エンゼルケア事業

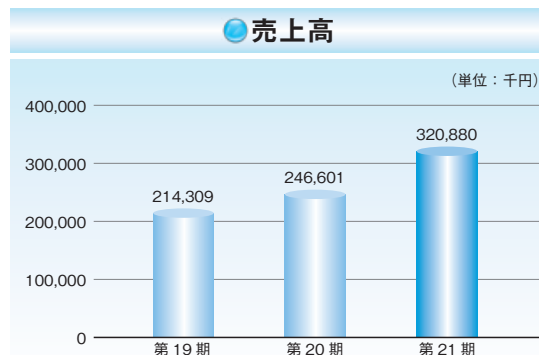
エンゼルケア事業につきましては、冠婚葬祭業の互助会及び葬儀社と契約を結び、主に湯灌サービス、CDCサービスを提供しております。人間としての尊厳を共感し、お身内の方々と永久の別れの場で感謝を示し、家族の絆を深めあうことが人間として大切であると考え、当社では、エンゼルケア事業を「介護の到達点」と位置づけております。お身内の方々がスタッフと一緒にさせて頂き、お洗濯、お化粧、旅支度を整える儀式形式のサービスを提供しております。取引先である互助会及び葬儀社に、当社サービスをご採用いただき、業績向上に努めてまいりました。エンゼルケアは17事業所と開設及び閉鎖はございませんでした。

(注) CDCサービス：スタッフが、ご自宅・葬儀場などにお伺いして、お化粧・納棺等を執り行うサービスです。



●サービス付き高齢者向け住宅事業

サービス付き高齢者向け住宅（旧高齢者専用賃貸住宅）につきましては、「フォーライフ大宮公園」、「フォーライフ七里」に続き、平成24年3月、「フォーライフ大宮公園第二」をさいたま市見沼区に開設し、3事業所となりました。





対処すべき課題

今後の見通しといたしましては、介護関連ビジネス市場は引き続き成長が予想されますが、既存の介護事業者の活動の活発化に加え、他業種からの新規参入等により、競争関係は厳しくなるものと予想されます。

当社においては、このような経営環境に対応し、事業の活性化を図り営業収益を確保すべく、デイサービス・訪問入浴・訪問介護・居宅介護支援・福祉用具貸与・特定福祉用具販売・ハウスクリーン・エンゼルケアまでのシナジー効果を活用し、効率の高い東京23区へのサービス拠点の展開を行い、ドミナントエリアを拡充してまいります。新規事業所出店においては、サービスの質と収益性を重視して進めてまいります。

また、既存事業においては、収益性の改善のために効率的な事業所運営と経費削減に取り組むことが重要な課題と考えております。

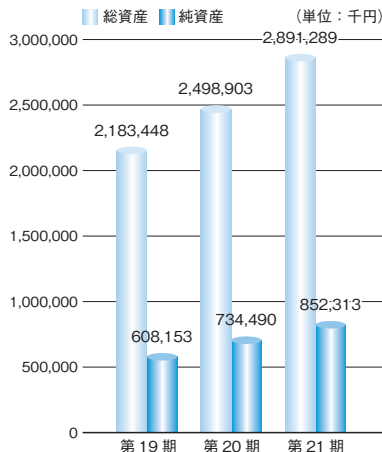
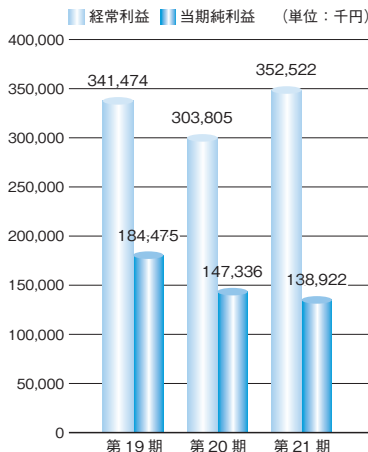
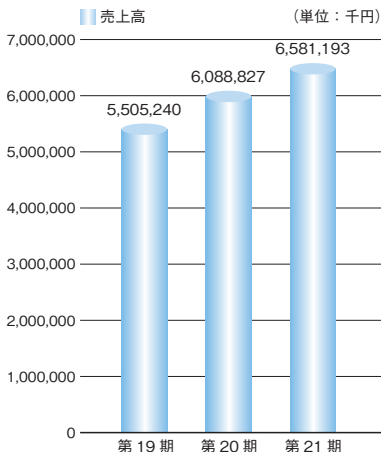
当社では、お客様一人ひとりの尊厳に共感したサービスを提供するためには、従業員の意識統一が重要であるとの考えから、会社の方向性・考え方をまとめた「ケアサービスフィロソフィ」を作成いたしました。朝礼の実施等、今後このフィロソフィの浸透に取り組んでまいります。また、優秀なスタッフの育成・定着のために人事評価制度改革プロジェクトを発足いたしました。

介護事業におきましては、蓄積した運営のノウハウを活用し、デイサービス事業所を中心として、訪問入浴・訪問介護・居宅介護支援・福祉用具貸与・特定福祉用具販売・ハウスクリーン・エンゼルケアまでの一連の介護サービスを有機的に結びつけるシステムを構築してまいります。デイサービスの収益性を安定させるべく、組織・要員体制の確立に取り組んでまいります。

一方、エンゼルケア事業におきましては、各地域の優良な互助会及び葬儀社と良好な関係の維持・発展を図り、営業基盤の充実を図ってまいります。幅広くお客様のご要望にお応えするために、社内研修による、資格・認定制度により、スペシャリストの育成と技術の向上に一層努めてまいります。

さらに、サービス付き高齢者向け住宅事業におきましては、当面フォーライフ大宮公園第二を満室にすることを第一優先の課題としつつ、デイサービスの東京23区ドミナント戦略をより一層効果的に進めるため、東京23区への進出も考えてまいります。

今後、当社の事業拡大に備えて、業務の標準化・効率化を通して経費の削減を図ります。また、内部統制の整備を通して、社会から更に厚い信頼を得ることができるよう努めてまいります。



●1. サービス付き高齢者向け住宅 「フォーライフ大宮公園第二」の開設

平成24年3月1日に、当社では3棟目となるサービス付き高齢者向け住宅「フォーライフ大宮公園第二」を埼玉県さいたま市見沼区に開設いたしました。

フォーライフ大宮公園第二は、有料老人ホームのような高額な入居一時金を必要とせず、包括的な介護サービスを受けることができるサービス付き高齢者向け住宅です。

日中の看護師の常駐、夜間の救急対応体制の整備により安心してご入居いただくことができます。

また、「終の棲家」として、看取り介護を行ってまいります。ご本人様やご家族様のお気持ちに寄り添いながら、ご家族様の心身の疲労や精神的なご負担にも考慮しつつ、心をこめて介護をいたします。

今後も東京23区を中心とした首都圏にてサービス付き高齢者向け住宅を積極的に展開してまいります。



●2. デイサービスの施設数の拡大と中大型化への移行

当社は、平成23年6月に東京都墨田区に「デイサービスセンター墨田」、7月に江戸川区に「デイサービスセンター東葛西」、そして同じく7月に東京23区外では初となる「デイサービスセンター保谷」を西東京市に新設いたしました。

また、これまで定員が20名から30名規模のデイサービスセンターを中心に展開してまいりましたが、今後は中大型デイサービスセンターの出店を行ってまいります。

それに伴い、既存の小規模や老朽化したデイサービスセンターの建て替えも進めてまいります。9月には葛飾区で「デイサービスセンター堀切」（旧デイサービスセンター堀切菖蒲園）を移転開設し、最新の設備と配慮の行き届いたフロアレイアウトによるサービスを受けいただくことができるようになりました。

当社では、引き続きデイサービスのドミナント戦略による東京23区を中心とした市場への集中と深耕により、サービスの質と収益性の向上を図ってまいります。



●3. 介護からエンゼルケアまで ～心豊かな人生を、そして感動の旅立ち～

当社は、従来の介護事業とともに、『介護の到達点』としてエンゼルケア（湯灌）事業を展開し、「介護からエンゼルケアまで ～心豊かな人生を、そして感動の旅立ち～」をサービスの使命として掲げております。

平成23年秋に当社のデイサービスにて、お客様やご家族様、地域の介護事業者様を集めて、人生の終末や死への生前準備を考える「ライフエンディングセミナー」を開催し、多くの方々にご参加いただきました。

「死」を考えることは同時に「生きる」ことを考えることです。自分の人生は最後まで自分で決めることができるように、介護サービスの選択から生前準備、そして天国への旅立ちまで、当社では最後までお客様のお手伝いを行いたいと考えております。





財務諸表

貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

	当事業年度 (平成24年3月31日)	前事業年度 (平成23年3月31日)		当事業年度 (平成24年3月31日)	前事業年度 (平成23年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	2,121,299	1,705,715	流動負債	1,520,903	971,545
固定資産	769,990	793,187	固定負債	518,073	792,868
有形固定資産	360,781	373,355	負債合計	2,038,976	1,764,413
無形固定資産	76,675	134,472	純資産の部		
投資その他の資産	332,533	285,359	株主資本	852,412	734,490
資産合計	2,891,289	2,498,903	評価・換算差額等	△99	—
			純資産合計	852,313	734,490
			負債純資産合計	2,891,289	2,498,903

POINT

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は、2,121百万円（前事業年度末1,705百万円）となり、415百万円増加しました。これは現金及び預金の増加327百万円及び売掛金の増加79百万円が主な要因であります。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は、769百万円（前事業年度末793百万円）となり、23百万円減少しました。これはリース資産（無形固定資産）の減少64百万円並びに敷金及び保証金の増加31百万円が主な要因であります。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は、1,520百万円（前事業年度末971百万円）となり、549百万円増加しました。これは短期借入金金の増加190百万円及び未払金の増加287百万円が主な要因であります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は、518百万円（前事業年度末792百万円）となり、274百万円減少しました。これは長期借入金金の減少235百万円及びリース債務の減少49百万円が主な要因であります。

(純資産)

当事業年度末における純資産の残高は、852百万円（前事業年度末734百万円）となり、117百万円増加しました。これは配当金の支払21百万円、当期純利益138百万円が主な要因であります。

損益計算書（要旨）

（単位：千円）

	当事業年度	前事業年度
	(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
売上高	6,581,193	6,088,827
売上原価	5,385,319	5,074,691
売上総利益	1,195,873	1,014,135
販売費及び一般管理費	832,846	694,002
営業利益	363,026	320,132
営業外収益	7,295	5,541
営業外費用	17,799	21,868
経常利益	352,522	303,805
特別利益	—	1,364
特別損失	65,008	28,456
税引前当期純利益	287,514	276,713
法人税、住民税及び事業税	171,558	131,463
法人税等調整額	△22,966	△2,086
法人税等合計	148,591	129,377
当期純利益	138,922	147,336

キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	当事業年度	前事業年度
	(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	588,059	185,438
投資活動によるキャッシュ・フロー	△127,918	△110,074
財務活動によるキャッシュ・フロー	△132,453	95,993
現金及び現金同等物の増減額	327,686	171,357
現金及び現金同等物の期首残高	672,358	501,001
現金及び現金同等物の期末残高	1,000,045	672,358

利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、企業価値の継続的向上を図るとともに、株主に対する利益還元を経営上の重要な課題として位置付けております。剰余金の配当等の決定につきましては、中長期的な事業計画に基づき、設備投資及び再投資のための内部資金を確保しつつ、株主に対する安定的な配当を実施することを基本方針としております。

上記方針に基づき、当第21期事業年度の期末配当につきましては、平成24年5月7日リリースの配当予想の修正に関するお知らせの通り1株当たり2,000円（配当性向15.1%）とさせていただきます。次期につきましては、1株当たり2,000円（配当性向13.2%）を予定しております。

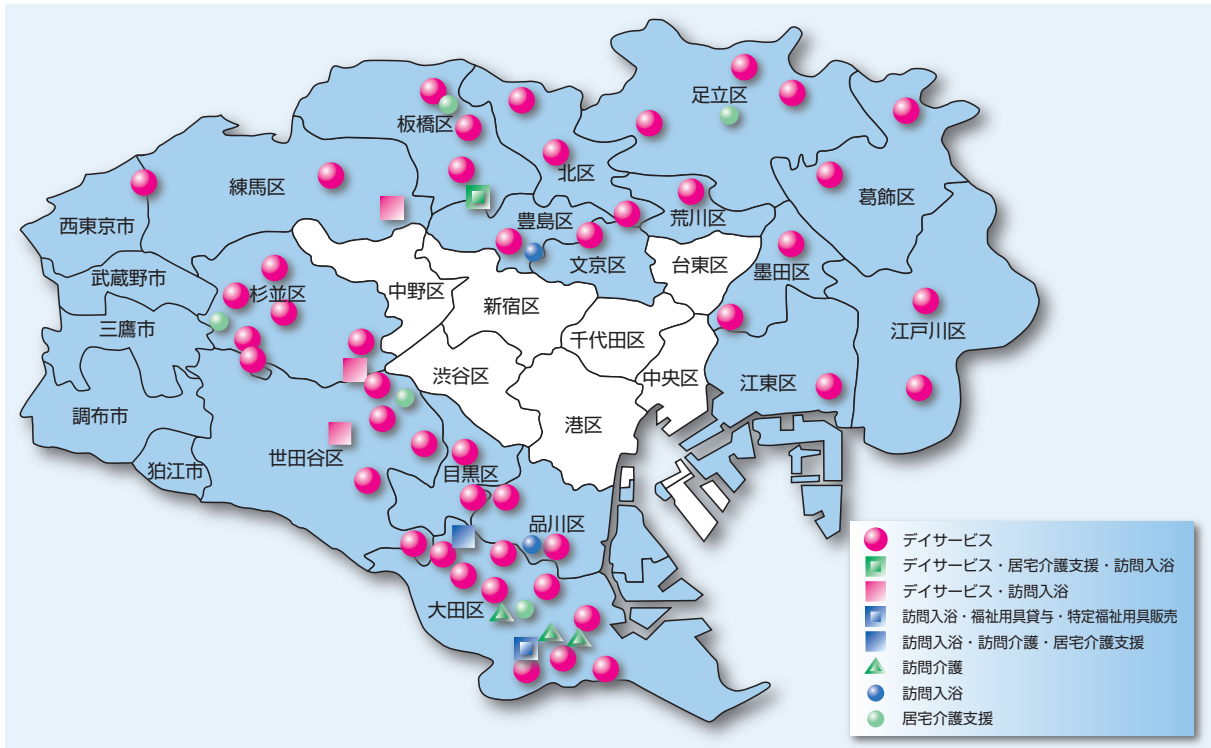
株主資本等変動計算書（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計				
平成23年4月1日残高	205,125	138,075	138,075	391,290	391,290	734,490	—	—	734,490
事業年度中の変動額									
剰余金の配当				△21,000	△21,000	△21,000			△21,000
当期純利益				138,922	138,922	138,922			138,922
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							△99	△99	△99
事業年度中の変動額合計	—	—	—	117,922	117,922	117,922	△99	△99	117,823
平成24年3月31日残高	205,125	138,075	138,075	509,212	509,212	852,412	△99	△99	852,313



東京23区内事業所マップ



事業所数 (平成24年3月31日現在)

〈介護事業〉

デイサービス：49事業所
 訪問入浴：11事業所
 訪問介護：4事業所
 居宅介護支援：7事業所
 福祉用具貸与・特定福祉用具販売：1事業所

〈エンゼルケア事業〉

エンゼルケア：17事業所

〈サービス付き高齢者向け住宅事業〉

サービス付き高齢者向け住宅：3事業所

ホームページのご案内

当社のホームページでも詳しい
 情報を同時に開示しております。
 ぜひ併せてご覧ください。

<http://www.care.co.jp/>





株式の状況・会社概要

●株式の状況（平成24年3月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 28,800株
- (2) 発行済株式の総数 10,500株
- (3) 株主数 636名
- (4) 大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
有限会社友愛	4,157株	39.59%
福原敏雄	1,332	12.68
第一生命保険株式会社	360	3.42
ケアサービス従業員持株会	332	3.16
市村司	304	2.89
古谷洋作	266	2.53
東京海上日動火災保険株式会社	240	2.28
株式会社太平エンジニアリング	240	2.28
関幸雄	150	1.42
シービーエヌワイ チャールズ シュワップ エフピーオー カスタマー	125	1.19

●会社概要

名称 株式会社ケアサービス
 代表者 代表取締役社長 福原敏雄
 本社 〒144-0054
 東京都大田区新蒲田三丁目15番7号
 TEL：03-5713-1611
 FAX：03-5713-1650
 創業 昭和45年10月5日
 資本金 2億512.5万円

●取締役及び監査役の状況 （平成24年6月25日現在）

代表取締役社長 福原敏雄
 常務取締役 大瀧裕司
 取締役 富澤政信
 取締役 小林航太郎
 取締役 岩原満
 常勤監査役 福島直廣
 監査役 藤好優臣
 監査役 吉田由美子

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
基準日 毎年3月31日
そのほか臨時に必要な場合には、あらかじめ公告いたします。

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先
電話照会先 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の当社ホームページアドレス
<http://www.care.co.jp/>



〒144-0054 東京都大田区新蒲田三丁目15番7号
Tel 03-5713-1611 Fax 03-5713-1650